



雨
天
友
愛

鳩山友紀夫

…はとやまゆきお

元首相、東アジア共同体研究所理事長

結果的に失敗しましたが、首相として
米国に対等な関係を求めたのは
当然のことだったと思います

はとやま・ゆきお

1947年、東京都生まれ。東京大学工学部卒業。父は威一郎元外務大臣、祖父は一郎元首相。専修大学助教授などを経て86年、自民党から衆院選に出馬し当選。96年、弟の邦夫氏らとともに民主党を結党。2009年9月、第93代内閣総理大臣に就任。12年12月、政界引退。

(『週刊生活』2015年秋号)

東京・永田町のビルの一室で鳩山友紀夫元首相にインタビューした。高ぶらず気取らず、自ら信ずるところを諄々^{じゆんぜん}と説く。信頼できる政治家と改めて感じ入ったが、筆者が前から思っていたことも再認識することになった。

政治家としての発声法を身につけていないのではないか。話す言葉がそのまま文章になるほど論理は通っている。が、あまりにも小声で、口調がナイーブである。言うことにハッキリも誇張もない。それはいいが、メリハリと表情に欠けている。大衆受けは難しそうだ。群れなす敵を押し切るのも難しそうだ。

鳩山さんの場合、人生の失敗といえ、就任後わずか9カ月で首相を辞めたことに尽きる。なおも首相を続けていたなら、国民は彼に続く民主党のぶざまな政権を見ずに済んだ。その延長上に「戦争法案」を強行採決した安倍政権があるのだから、鳩山さんの失敗は国民レベルの損失になる。

首相在任中、追及された政治資金の問題にしても、本来は騒ぎ立てる話ではなかった。鳩山さんの母親が5年間で約9億円を資金提供した。生前贈与だから贈与税の問題は生じらるだろうが、鳩山さんが政治で利権あさりしたのではない。逆にありあまる個人資産を政治に注ぎ込んでいた。昔、国事に奔走して家産を失う政治家を「井戸堀」政治家と呼んだが、

鳩山さんの政治資金は井戸掘政治家の流れを汲み、法的にはともかく、道義的には恥ずべきことではない。だが、自民党は当然として、マスコミも意地悪く解釈して鳩山さんを叩き、ついに辞任に追い込んでしまった。

鳩山 私が首相を辞めざるを得なくなった理由はふたつあって、そのひとつが政治資金、おカネの問題です。もうひとつは、米軍普天間基地(沖縄県宜野湾市)の移設問題に関して「最低でも県外(移設)」と申し上げたにもかかわらず、最終的には県内の辺野古への移設に戻ってしまった、そのことで沖縄の皆さんの怒りを買ってしまった。

このふたつの問題を抱えたままでは、すぐ近くに控えている参議院選挙(10年7月投票)に民主党が勝てないのではないかと、という不安がありました。参院選に負ければ、自民党の協力を得ないと法案や予算が成立しない状況になりかねない。それでは政権交代した意味がありませんので、参院選に勝つためにも私は首相を辞めたのです。

おカネの問題では、すでに亡くなっている方から政治献金がなされていた、いわゆる「故人献金問題」や母親からの政治資金提供の問題がありました。例えば、母からの資金手当てについては、今も当時もそうですが、事実を国民の皆さんに分かっていただけない。あんな巨額のおカネを母から毎月もらっていたながら私が知らないはずはな

い、というのが世間の常識でしょう。でも、本当に私は全く知らなかった。母は人に任せていて、その人と私の秘書との間でやりとりがあって、私は何も把握していませんでした。

新聞社やテレビ局から猛反発された

鳩山さんの言い分は信じられる。母親に年間配当3億円以上をもたらすブリチストン株など、鳩山家の資産は400億円以上とされる。母親が息子の鳩山さんに融通できるカネが庶民の金銭感覚を超えているのは当然だろう。カネはあるところにはある。一般庶民にとっては「面白くない現実」だろうが、これに異論は唱えられない。

2009年9月、民主党政権の成立で初めて自民党に代わり得る政党が実体を得た。それへの反発や抵抗は、自民党や官僚、財界やマスコミなどの間に非常に根強くあった。鳩山さんも首相の座に就いて、そうしたことを肌身に感じたと思う。

鳩山 政権交代をした当初、私たちは「官僚任せだったものを全て我々が政治主導でやるぞ!」何でも改革するんだ!と意気込み過ぎていました。例えば、マスコミにとっ



1986年、総選挙で旧北海道4区(現9区)から出馬し初当選。選挙スローガンは「政治を科学する」だった。

のだろうか。「一段取り八分」という。段取りなしでは勝てる勝負も勝てない。

鳩山 確かに、優先順位をつけて取り組む必要があったと思います。ただ、選挙では、子ども手当や高校授業料の無償化など様々な改革案をマニフェストとして掲げていましたので、どうしてもいろいろなことを同時にやらなければなりませんでした。

鳩山さんの前に民主党の代表を務めていた小沢一郎氏は、09年3月に建設会社からの違法献金疑惑で公設秘書が逮捕され、5月に代表を辞任した。その4カ月後、民主党政権が誕生すると、鳩山さんの要請で小沢氏は幹事長に就

て一番の「既得権益」である記者クラブ制を廃止しようとした。新聞社やテレビ局などが情報を独占する記者クラブ制は、まさに内向きで閉鎖的な仕組みです。そこで、首相の記者会見も全てオープンにして、誰でも参加できるようにすべきだと言いました。記者クラブ所属のマスコミとケンカをしたわけですね。

でも、最初からそんなことをしなくてもよかったのではないかと今では思います。自民党や官僚を敵に回して改革を進めるには、民主党の政策を国民に知らせて支持を得なければなりません。そのためにはマスコミを味方にする必要がある、そんな冷静な判断をすべきだったかもしれません。結果的に新聞社やテレビ局から猛反発を食らうことになりました。

日本社会で最も時代遅れなもののひとつが記者クラブ制だ。それがマスコミの情報独占、検察など官とメディアの癒着、官により操作された情報の拡散をもたらしている。記者クラブ制を打破しようとした試みは正しいと思う。だが、長野県知事だった田中康夫氏がかつて「脱・記者クラブ」を打ち出し、記者から激しく反発された例もあり、メディア側の拒否反応はある程度予測がついただろう。

記者クラブの問題もそうだが、鳩山さんは政策の出し方の順番などをどこまで考えていた

いた。自民党時代を含めて政界での経験の長い小沢氏は、鳩山さんをバックアップできたのだろうか。

鳩山 小沢さんに幹事長になっていただいて、「党務は小沢さんに任せます。そのかわり、政策に関しては私にやらせてください」と役割分担をしたんですね。ですから、政策について、小沢さんは何も言ってきませんでした。

当初、鳩山政権が打ち出した政策は、非常に清新というか、世の中はこれで変わると希望を持った人は多いはずだ。それを実現するためにも、小沢氏の持っているキャリアというか、狡さというか、それがもうちょっと働いてもよかったような気がする。

鳩山 政界でのキャリアが豊富な小沢さんの意見をもっと伺えばよかったと思います。小沢さんに閣僚になってもらい、内閣の一員としての意見を聞くべきだったという指摘もあるのですが、「政治とカネ」の問題で、私以上に当時の小沢さんは激しく責め立てられていました。小沢さんが内閣に入れば、予算委員会などで毎日攻撃されることは想定できました。そうなる、小沢さんも苦しいだろうし、政権としても非常に厳しい状況になります。そういうこともあって小沢さんを閣僚にしなかったのですが、どちらがプラスだったのか、今となっては判断が難しいところです。

米軍普天間基地の県内移設は許されるわけではない

鳩山内閣では、米軍普天間基地の移設問題などで、「アメリカに従属する日本ではなく、対等な日米関係を」という考えが打ち出された。戦後日本の歴史のなかで、これほどはつきりと安全保障における対米関係の改善を打ち出した政権はない。しかし、普天間基地の移設問題では「最低でも県外(移設)」と言いながら、その後ポロポロと崩れていく。鳩山さんの発言は基本的に正しいメッセージだったと思う。ただ、もう少し段取りというか、受け皿づくりを先行し、ある程度目星がついた段階で打ち出すべきだった。

鳩山 おっしゃるとおりです。私が代表になる前から民主党は「国外移設」を党の政策として決めていました。09年衆院選のマニフェストにはそこまで明確に書きませんでした。私が、私は何度も選挙の応援で沖縄に行くたびに、沖縄の方々の気持ちがあんなに伝わってきたんですね。普天間基地の移設先が再び沖縄県内などということとは、とても許されるわけがないと思った。だから「できれば国外、最低でも県外」と言ったのです。が……。

今、自民党政府が案の定というべきか、普天間基地の辺野古への移設問題で多くの沖縄県民から反対を受けている。

鳩山 私は奄美の徳之島(鹿児島県)に普天間基地の一部を移すことを09年末ぐらいから考えていました。徳之島の町長さんや青年部の方たちから「このままでは町が高齢化して寂れていくばかりで、何か力をもらわないとやっていけなくなる」「普天間基地の移設先で困っておられるなら、ぜひ徳之島に」という話があったんです。大変ありがたい話だと思いい、私は官房長官などに調査を指示しました。ところが、メディアにこの話が漏れ、一斉に攻撃されて計画は頓挫しました。

——そのとき、米軍から「徳之島への移設には反対」と言ってきたのか。

鳩山 当時、普天間基地の移設に関しては、日米の役人数名ずつが集まって作業部会をつくり、基本的に月に一度の話し合いをしていました。その場で「訓練の一体性」という話がアメリカ側から出たという報告を受けました。沖縄の海兵隊は普天間基地の航空部隊だけでなく、地上部隊や補給部隊が県内に分散しています。それら各部隊が一カ所に集まって訓練をするので、あまり遠いところに代替飛行場をつくられると、そこまでへりて往復するのに時間がかかり、訓練する時間がなくなってしまうと。そのため「沖縄

から65マイル(約105キロ)以内に飛行場がなければ無理だ」という作業部会の結論が私のところに持ってこられた。65マイル以内となると、もう沖縄本島以外に選択肢がないようなもの。

ところが、あとになってみると「65マイル以内でないとダメだ」と誰が言い出したのかはつきりしないんです。アメリカ側も誰もそんなことは言っていないと言うし、日本の防衛省も外務省も知らぬ存ぜぬです。

要するに日本の官僚がアメリカの顔色を窺い、その意向を忖度するばかりか、ありもしない話をでっち上げた。あげくアメリカへの忠勤競争で「これは大変だ」とメディアと一緒に騒ぎ立てた。「鳩山内閣はアメリカという虎の尾を踏んでしまった。これは大変だ」と、根拠もない過剰で誤った反応をしたわけだ。

鳩山 良くも悪くも、日本がアメリカに頼っている部分は大きい。そうになると、「対等な同盟関係などと言う鳩山はけしからん」「日本を自立させるなんて100年早い」と思っている人たちが、アメリカの政治家や官僚の中に相当いるのでしよう。

しかしアメリカは一枚岩ではない。2010年、米『TIME』誌は、米国と対等なパートナーシップを求め、日本を民主主義の機能する国に変えようとしている、賞賛に値する政



鳩山友紀夫

治家として、鳩山さんを顕彰した。

鳩山 「世界で最も影響力のある100人」の中の1人に入れてもらったようですね。確かに、アメリカの一面だけを見たら判断を誤ります。特にジャバン・ハンドラー(知日派)と言われるアメリカの政官界の一部の人たちの発言が、日本のメディアでは大きく取り上げられますよね。

彼らに取り入る日本の政治家や官僚は、自分たちこそが既得権を握る者としての現状を固定化しておきたいわけです。そういう発想から日本の外交や安全保障に関する「物語」がつけられてきています。

その結果、あらゆることについてアメリカの顔色を窺い、お許しを得なければ日本は何も進められなくなっている。例えばTPP(環太平洋戦略的経済連携協定)がそうですし、最近では中国が進めるAIIIB(アジアインフラ投資銀行)もそう。アメリカに「G8(主要8カ国首脳会議)のほとんどの国はAIIIBには入らないから、日本もやめなさい」と言われて、日本政府はそれを真に受けた。

でも、ドイツ、フランス、イギリス、イタリアなどが参加することになり日本は取り残された。本当に情けない外交を繰り返しています。

この国は危ない方向に向かっている

鳩山さんが政治資金や普天間基地の移設問題で官僚やメディアに包囲され、無念にも敗れた事情はよく分かった。しかし、その後、菅直人氏、野田佳彦氏に政権をバトンタッチしたことがよく分らない。

鳩山 09年の衆院選は、党内での議論の末にまとめたマニフェストを掲げて戦いました。民主党内には色々な考えを持つ方がいますが、少なくともこのマニフェストに添ってれば、私の後も大きな崩れはなかったと思います。

私の後、菅さんが総理になった瞬間、内閣支持率は上がりました。「このまま行けば参院選に勝てるだろう」「自分は辞めてよかった」と安心していた矢先、菅さんは消費税増税の議論をされた。約1年前の衆院選で民主党は増税反対を打ち出したのですから、あのとき絶対にはいけなかった議論でした。結果として、参院選で民主党は大敗し、参院で過半数を割りました。その後、法案を成立させるために自民党との妥協が重くなって、マニフェストが骨抜きになっていきました。

マニフェストを一旦出した以上は、守ってもらわなければ困る。政党の公約はそんなに軽いものではない。もう一つ鳩山さんが首相を辞任するとき、「政界引退」に言及したのは余計ことだったろう。失敗の類だ。まだ若いし、安倍政権の下、戦争法案が強行採決された状況の中で、ますます鳩山さんには存在価値を持ってもらわなければならない。

鳩山 現在、この国は危ない方向にどんどん向かっています。この国が、弱肉強食ではない、より平和で共生できる社会になるために、自分が役に立てることがあるのかどうか。ここで何もしないことは責任放棄ではないかとも考えています。

鳩山さんの影響力がさらに存続するためには、引退宣言が邪魔になっている。政界復帰するばかりか、一派を立てて、さらに戦うんだという姿勢を打ち出してもらいたい。

2015年3月、クリミアに行ったのは政界引退者、首相経験者としての行動だろうが、クリミアでの「民主的な住民投票を通じて、どう領土問題(ロシアへのクリミア編入)が解決されたか納得できた」という鳩山さんの発言には筆者個人として全面賛成したい。歴史的にもクリミアはロシアの領土であり、住民投票の結果を受けた編入も何も問題はない。

鳩山 もともとクリミアは18世紀後半からロシアの領土でした。20世紀半ば、ウクライナ出身のフルシチョフ書記長の時代にロシア共和国からウクライナ共和国にクリミアが

移管されました。それ以来、クリミアの人たちはロシアに戻りたいと思っていたわけで、昨年の住民投票を経てロシアに戻ったのです。

クリミア編入を「ロシアによる武力侵攻だ。けしからん」というのは欧米の言い分であって、それに日本が同調するのは「忠犬ボチ」の習性だろう。アメリカの言い分をオウム返しにするのが日本の能ではない。まして日本は北方領土問題を抱え、今後、ロシアと交渉しなければならぬ立場なのだ。安倍総理が、北方領土問題を解決して歴史に名を残したいのなら、鳩山さんのような考え方が必要だ。なぜ、そういう発想ができないのか。

鳩山 結局、アメリカの方ばかり見ているからでしょう。私は学生時代の6年間をアメリカで過ごしましたので友人も多く、決してアメリカ嫌いじゃないんです。ただ、日本の政治家や官僚が、アメリカの意向を気にしすぎるのが問題なんです。私は結果的に失敗しましたが、日本の首相として米国に対等な関係を求めたのは当然のことだったと思います。

今の政府や自民党には対米追従の思考があるばかりで気概も見識もない。日本の「国益」を考える力さえない。鳩山さんは首相退陣後も「空気が読めない」「宇宙人」などと否定的に報じられ、つくづく損な役回りを引き受けているが、鳩山さんほど首尾一貫した政治家は

いないと筆者は考えている。鳩山さんも失敗したが、一時期、ごく短期間だったが、「これで日本も変わるかもしれない」という希望と樂觀の灯を国民の胸にともしてくれた。泥臭い政治しか知らない日本国民であっても、理想のように高くともる灯も理解できる。鳩山さんはもう一働きすべきだろう。